

個性溢れる
24人の
インテリア

わたしらしく、暮らす ドイツ・ベルリンの居心地いい部屋

シンプルでスマート、かつロマンティック！
わたしたちが探し求めていた、
自分だけの暮らしスタイルを創り出すヒントがいっぱい。





色、いろ、イロ……なんでも色別!に感動する部屋

ユーリ・ゲーデフス
Juli Gudehus
グラフィックデザイナー

キッチンとはかくグリーン色! バスルームはオレンジ! 洋服や靴や本までもがすべて色別に整理されているユーリさんのアパート。職業柄からか、徹底した色へのこだわりには敬服します。

そもそもこれは、たまたま路上で見つけた粗大ゴミがきっかけでした。「新婚旅行先で綺麗なオレンジ色のキャビネットが粗大ゴミとして捨てられていたのよ。ゴミにするにはあまりにもきれいだし、オレンジ色は夫の好きな色だから拾ってきたの」。そこからバスルームはすべてオレンジ色に、キッチンはユーリさんの好きなグリーンに統一するという、色別インテリアの歴史が始まったのです。

テーマで統一するのは色だけではありません。物置やゲストルームとしてフレキシブルに使っている部屋はすべて花柄のフラワーーム。きっかけはやっぱり粗大ゴミ。花びら型のランプシェードを路上で見つけ、そこからこの部屋を花柄でコーディネートするようになりました。

でも「インテリア自体はキメすぎず、普通にしたいわ」と、ユーリさん。確かに壁は白く、家具はベーシックなものを置いているのでバランスが取れています。そのバランス感覚は、さすがデザイナーです。



Life style
ドイツ国内やマイアミ、ロンドンなどに滞在。客員教授として、グラフィックデザインを教えています。旦那さんと2人暮らし。



1床にも資料が整然と並ぶ仕事部屋。窓際にもデスクが、2-目隠し的なペーパーの配置。3中央の花びら型のランプシェードがこのフラワーームのコンセプトのきっかけ。4花柄のペーパーは各国からのコレクション。



5 たくさんのモニタが並ぶ仕事部屋。でも広さがあるのですっきり。6 リビングの本棚は色別収納。7 一定の場所に立つと、「すべてはまったく違って見える」という文章が読み取れる廊下。友人が描いてくれたもの。8 仕事道具は壁に打った釘にかけて整理。9 コンピュータのスペシャリストである旦那さんの、歴代マックが並ぶ部屋。10 壁の文章は実際はゆがんで書かれている。



alles sieht ausgesprochen anders aus



11



11 キッチンには備えつけたものを、棚の表面にフィルムを貼り、大好きなグリーンにチェンジ。床のタイルは「norament」という、美術館でも展示されている商品。12 キッチン棚の上には、アルファベット順に並べたパッケージのコレクション。13 グリーンボトルのコレクション。14 食器もグリーン。15 水罎りも当然グリーン。16 キッチンの片隅に立っている、マネキンの脚部分。そこだけなまめかしい印象。





17 玄関脇の小物クローゼットも色別に。18 寝室の箱のパッケージコレクション。19 寝室の洋服とその下の靴ももちろん色別収納。20 バスルームはオレンジ色。21 色別インテリアの元となったキャビネットと椅子。22 ゲストトイレのペーパー。

Point

色が多くても、部屋ごとに統一することでスッキリした印象に。家具がベーシックで、壁が白いため、バランスがとれています。リラックスしたいリビングと寝室に天井からの照明はなく、フロアライトとスポットライトがあるのみ。

Layout

長い廊下がある、典型的なベルリンの建物の間取り。表通りに面した日当たりのいい部屋がリビングと仕事部屋。寝室は静かな裏側にあります。



ロマンティックな部屋



お手本は18~19世紀にかけての、優美な曲線を描くデザインですが、現代はもう少し軽やかに、そしてカジュアルに。蚤の市やセコンドハンドショップで、ぴったりの家具が手に入ります。